

高野美春が秋のロング種目に続き2冠達成。男子東北の大橋がミドル優勝。東北大学の優勝は3年連続。

2010年3月13日 栃木県日光市
日本学生オリエンテーリング選手権
ミドルディスタンス種目



2009年度のインカレ個人タイトルを2個とも獲得した高野美春（十文字女子大学）

男子ミドル選手権 5.9km ↑260m			
1	大橋悠輔	0:43:34	東北 4
2	小林 遼	0:44:07	東京 3
3	松井健哉	0:44:16	名古屋 3
4	山上大智	0:44:19	東京 3
5	林 真一	0:44:40	名古屋 4
6	片岡裕太郎	0:46:33	名古屋 4
女子ミドル選手権 4.3km ↑150m			
1	高野美春	0:41:07	十文字女子 3
2	星野智子	0:42:50	津田塾 2
3	鈴木聡子	0:45:07	東北 4
4	水野日香里	0:46:18	榊山学園 3
5	新井宏美	0:46:22	新潟 3
6	田村蓉子	0:47:06	東京工業 2



男子優勝の大橋悠輔（東北大学）

日光・晴れの舞台

今年もインカレがやってきた。学生が主役で輝く大会である。最高に晴れ上がった空の下、今年も多くの感動を見せてもらった。大学をあげた応援合戦も健在だ。インカレは観る者の心を熱くする。

そんな今回のインカレで一番輝いたのは高野美春（十文字女子大学）と大橋悠輔（東北大学）だった。

インカレミドルも国際基準に

1992年から開催されてきたインカレのミドル種目は、最初ショートディスタンス種目として始まった。これは国際的なショート競技の流れに対応したものだ。時は流れ、名前をミドルと変更しても、インカレでは昨年度まで以前のような予選決勝スタイルで行われていた。

その間に世界基準は変更され、今やミドル種目はウイニング40分の1本勝負で技術を問う競技へと変貌していた。

今回の春インカレから競技方式が国際方式へと変更になった。

その背景は国際基準への追従というより運営負荷の軽減という理由が大きかった。

だが今年の実行委員会は気合いが入っていた。スタートに選手を直接輸送するなど競技性をとことん重視。最高のステージを作り上げた。



女子入賞者。左から高野、星野、鈴木、水野、新井、田村

男子ミドルは裁定に

実は今回のミドル競技進行中にちょっとしたトラブルがあった。フィニッシュに向かう誘導路がクランクしている箇所があったが、それを何人もの選手が正確に辿ることができず、ショートカットしてしまったというのだ。

競技終了後ただちに裁定のための審議が行われたが、競技が行われた日には結局裁定は出ず、表彰式は翌日のリレーの日に持ち越された。

裁定の結果、誘導不十分であるとされ、不本意ながらショートカットしてしまった選手の成績は正式に認定されることとなった。

このショートカットによるタイム差は3秒程度であり、この影響が少なかったこともこの裁定の背景にはある。

しかしながらこのように裁定に持ち込まれてしまったことは運営にとっても参加者にとってもちょっと残念。それだけ選手も運営も真剣に取り組んでいることの表れなのだ。



男子オリエンテーリング選

男子入賞者。左から大橋、小林、松井、山上、林、片岡

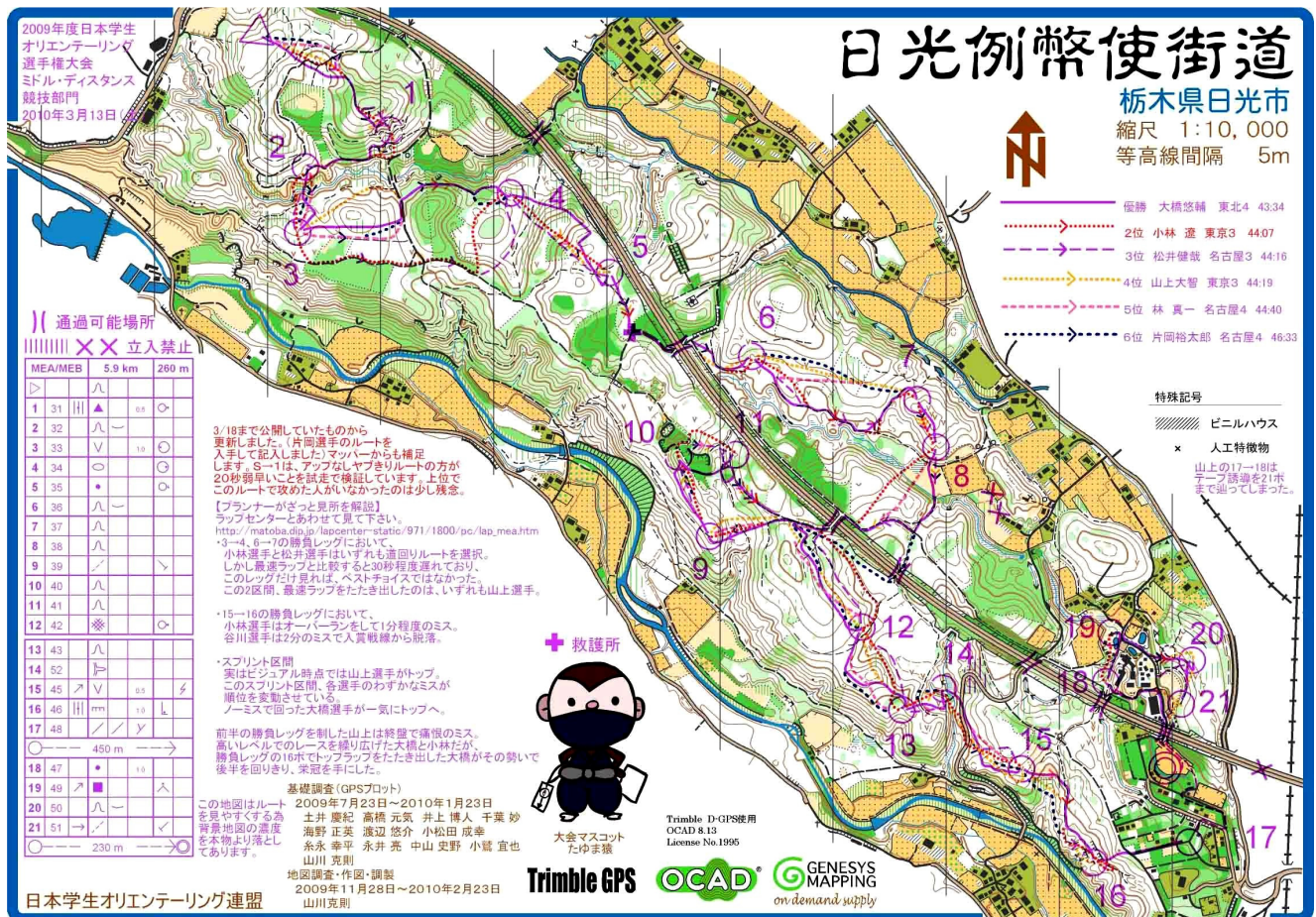
併設クラスに挑戦

例によって筆者・木村も併設クラスを楽しませてもらった。インカレの主役は学生ということで、併設クラスは

日本代表選手からおじさんまでが混ざってレースを展開できる。1番に着く前に日本代表の加藤に軽く抜かれる。結果を見るとスピードの差がくっきり。もっと精進しようかなあ・・・と学生でなくとも練習へのモチベーションが

上がった大会となった。

(木村佳司)



男子A決勝のルート図。細長いが通行可能度バツグンのテレイン